

授業科目 比較言語研究演習Ⅱ	単位 2単位
授業担当者 菊澤律子	授業期間 後 期
授業の題目と概要 「オーストロネシア比較言語学」 比較(歴史)言語学は、近年まで文字による記録方法を持たなかった民族の「むかし」を知るのに有効なツールの一つであり、先史研究においても重要な役割を果たしている。たとえば、ポリネシアの人々が(南アメリカから来たのではなく)フィジー諸島東部からトンガ・サモアを経て東太平洋全体に拡散・定住したことは現在ではよく知られているが、これも比較言語学の成果である。この授業では、比較言語学においてここ数十年間にめざましい研究成果があげられてきたオーストロネシア諸語を概観しながら、比較言語学の理論的背景を理解し、その手法を実際の言語分析に応用できるようになることを目標とする。	
授業の内容と計画 前半では、基本事項を確認するとともに、データ分析を通して比較言語学の手法を身につける。続いて、これまでに再建された成果と現在話されている言語を比較しながらオーストロネシア諸語がどのように発展したのか、音韻・語彙・文法構造・意味などさまざまな面を対象に検討する。後半は各自、比較の研究プロジェクトを選んでレポートにまとめる。なおオーストロネシア語圏を専門とする言語学専攻でない受講生等についてはプロジェクトの内容などを考慮するので、開講前に担当教員に相談のこと。また、参考書は開講までに読み終えておくこと。内容について質問がある場合には、開講前でも担当教員にメールにて連絡してかまわない。	
使用する参考書、参考論文等 参考書 CROWLEY, TERRY. 1992. <i>An introduction to historical linguistics</i> . Oxford: Oxford University Press. その他については、適宜指示。	
成績評価基準 出席率と毎回の課題による。	
その他の留意事項 履修対象者は①言語学の基礎的な知識(音声学、音韻論、形態統語論、比較言語学)を有する者、もしくは②オーストロネシア語圏の先史・歴史研究を専門とする言語学専攻以外の学生とする。受講希望者は、登録前に授業担当者に連絡をとり、授業の内容や受講の可否について確認すること。	